



説教要旨「あなたの罪は赦された」

ルカによる福音書 5章12～26節

イエス様が行われた癒やしの奇跡が記されています。癒された病人の1人は、全身重い皮膚病にかかった人で、もう1人の癒された病人は、中風を患って寝たきりの人です。

当時、“病”というものは、宗教的な“汚れ”とセットになって考えられていました。重い皮膚病を診断するのは、医者ではなく祭司です。そして皮膚病が治った際にも、祭司に完治したことを見せて清めの儀式を経て始めて社会復帰が許されるのです。つまり、この重い皮膚病は宗教的な“汚れ”と同一視されています。そこには病や災いを、人が犯した“罪”の結果として与えられる天罰だとする因果応報的な理解があるからです。問題は、酷い目に遭っているこの人は、その天罰を受けるだけの罪を犯しているに違いないと、決めつけてしまうところにあります。

ヨハネ福音書の9章には、【生まれつきの盲人をいやす】というエピソードがあります。そこで弟子たちがイエス様にこう尋ねています。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか」（ヨハネ 9:2）イエス様の弟子たちでさえこうですので、病気や障害を罪の結果の天罰と捉えるのはごく一般的な考え方だったと思われるます。ですから、この重い皮膚病の患者や中風の患者も、病気自体の苦しみだけではなく、周囲から『罪人』として見られ扱われるという苦しみをも抱えていたのです。だからこそ、イエス様は、この中風の人に対して「あなたの罪は赦された」と宣言されたのです。

わたしたちには、病気を癒す奇跡の力はありません。病気で苦しんでいる人の苦しみを取り除くことはわたしたちにはできないのです。けれども、罪人の苦しみを取り除くことならばできるかも知れません。人間であるわたしたちが罪を赦すのではありません。わたしたちの身代わりとして十字架で死んで下さったイエス様が「あなたの罪は赦された」と宣言してくださるのです。この十字架による救いを指し示す歩みへと送り出されて参りましょう。

(2023・2・12 説教者：稲垣真実)

